

# 環境白書の発刊に当たって



京都府は、昨年6月1日、観測史上で最も早い真夏日を記録しました。8月には、台風11号と断続的な豪雨により、平成24年の府南部地域豪雨、平成25年の台風第18号に続き、3年連続で大きな被害を受けました。また、世界各地で、台風の大規模化、頻発する大雨や干ばつなど、地球温暖化の影響と考えられる異常気象が報告されています。

昨年11月に公表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第5次評価報告書によれば、地球に累積したCO<sub>2</sub>の約半分は過去40年間に排出され、特に最近の10年間は大幅に増加しているとされており、地球温暖化対策は、まさに焦眉の急を告げる問題となっています。

一方、昨年12月にリマで開催された「COP20」では、すべての国が共通のルールに基づいて温室効果ガスの削減目標を策定する方針で一致したものの、本年末に最終合意を目指す2020年以降の新たな枠組みづくりについては、なお多難な道のりが予想されます。

京都府では、京都議定書誕生の地として、高い削減目標を定め、京都版CO<sub>2</sub>排出量取引制度など先進的な地球温暖化対策を推進してきました。東日本大震災による原発事故を背景とした電力需給問題を受けて、「京都エコ・エネルギー戦略」を策定し、「エネルギー自給・京都」を目標として、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの普及・拡大、最新型エネルギーマネジメント機器の導入促進による省エネ・節電の推進、けいはんなエネルギー未来都市の実現、環境産業の育成など、地球温暖化問題と表裏一体の関係にあるエネルギー対策に積極的に取り組んでいるところです。

また、昨年9月にユネスコが支援する世界ジオパークに再認定された「山陰海岸ジオパーク」や、地元とともに国定公園の指定を目指している由良川・桂川中上流地域などの貴重な自然資源の保全と活用、暮らしに息づいている「しまつの文化」を活かした循環型社会づくり、PM<sub>2.5</sub>や環境放射線の監視と情報提供などの新たな課題への対応など、社会の動きに的確に対応しながら、環境対策に総合的に取り組んでいます。

この白書は、京都が長い歴史の中で育んできた知恵と文化を活かして、持続可能な社会の新しいモデルを京都から創造・発信していくために、地球温暖化やエネルギー、循環型社会の形成、生物多様性の保全をはじめ多岐にわたる環境保全対策の取組を紹介し、環境の大切さについて考えていただく材料となることを期待して発刊するものです。

多くの皆様に御活用いただき、京都府の環境政策に理解を深めていただきますとともに、環境を一緒に守り育てる取組を進めていただく際にお役に立てば幸いです。

平成27年3月

京都府知事 山田 啓二